

BIを超える利益直結のITソリューション

省 脳 化

O. OPTIMUM **D.** DECISION **M.** MAKING

概説書



納富誠治著(ダイヤモンド社刊)

カスタマ経営&ITコンサルタント
納富誠治
<http://www.bbc-g.com>

このままではITは行き詰る!?

これからのIT戦略のキーワード「O.D.M」とは!?

OPTIMUM DECISION MAKING

< 現状の課題 >

- 氾濫する収集情報 <何でも収集、でも活用は後回し>..... 巨大なデータベースが泣いている!
- 不明確な情報出力 <いつまでも結果情報を山程出力>..... 役に立つ情報は極端に少ない!
- 欠如するB.P.R.概念 <経営目標達成とビジネスプロセスは不一致>.. あるべきビジネスフローが創れない!
- 経営ベクトルと現場ワークとのギャップ <経営方針を実現出来ない現場実務>.. トップ層が空回り!
- 現場業務への非反映 <情報分析は幹部用>..... 現場には不益な情報の山!
- 各現場に蔓延する自己満足型の膨大な情報 <非有効なデータの羅列とグラフ化> ... 成果無し!

DWH/B.I.ツールで情報分析するだけでは経営改革に繋がらない!
企業の最大経営資産は「人」であり、その「人」の能力を最大限に活かすシステムが鍵!



「O.D.M」⇒人が業務遂行する際のあらゆる判断業務を社内でベストなロジックでシステム化し、全員に最適な判断が出来るようにサポートするシステム。企業活性化効果大!

省脳化によるO.D.Mの実現

<Optimum Decision Making>

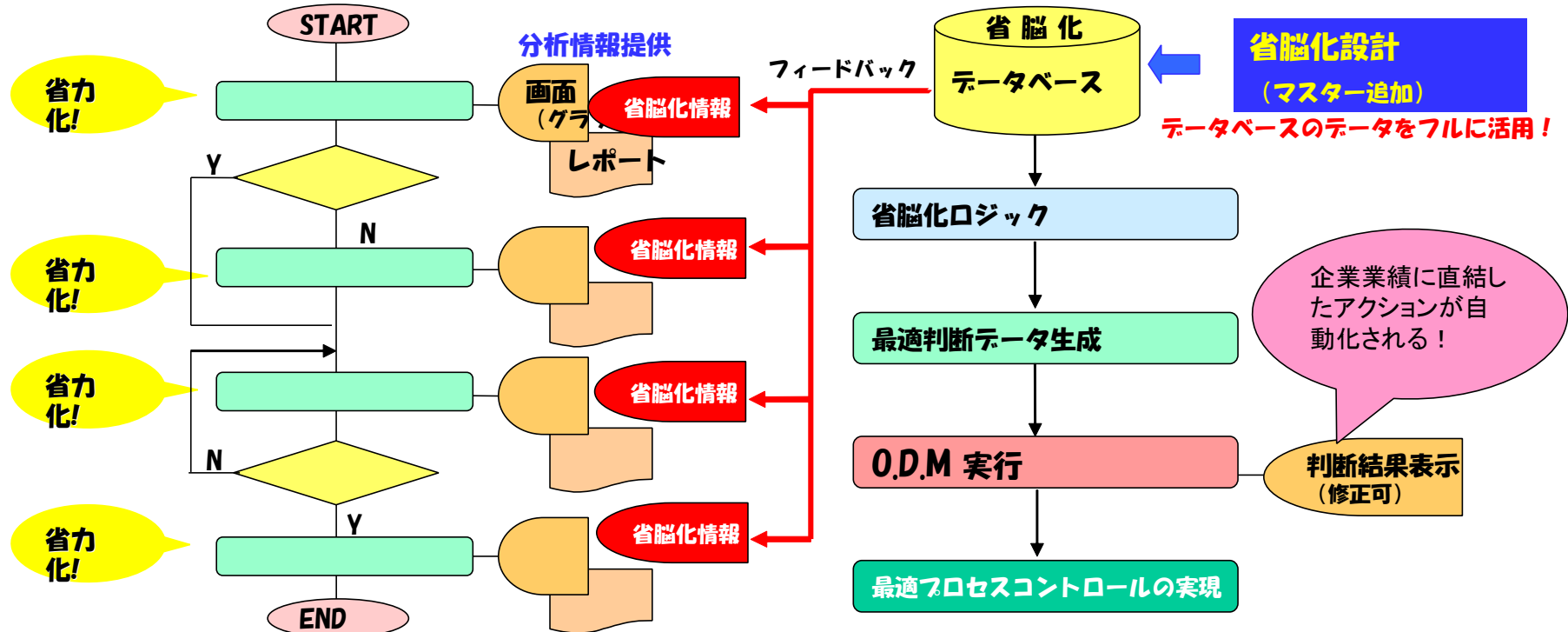
これまでの情報システム

改革

省脳化システム

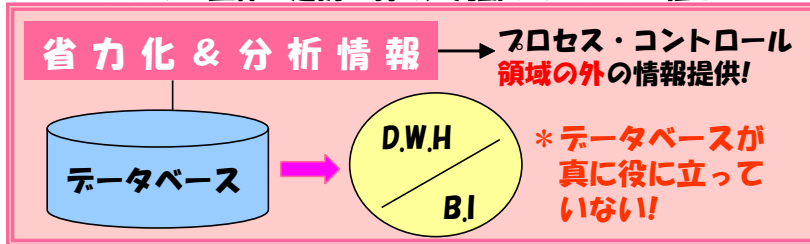
社内業務プロセス個別の省力化を実現

各業務システム全体を連動させかつ、最適化判断を実現!



※システム全体の連携が弱く、判断はマネジャー任せ!

※最適判断はO.D.M.ロジックでリアルタイムに実現!



理念の「D.W.H / B.I.」と実践の「O.D.M.」との違い

「D.W.H & B.I.」

- 誰もが簡便に自由に情報分析が出来るが、自己満足の情報分析屋を輩出するだけで**最適な判断まで到達しない**
- 膨大な情報から必要情報を検索するだけで時間を浪費する
- アクションに帰結させるのは個人の能力に依存。企業の全体底上げにはならない
- 情報分析は特殊業務となり日常業務の中には反映しない(日々の活動には役立たない)

「O.D.M.」

OPTIMUM DECISION MAKING

- TOPからMiddle～Line層までそれぞれの**判断業務を最適レベルで標準化**し、情報システムに組み込むことで企業力を大幅UPさせる
- **P.D.C.A.**を意識したアクション帰結型の
- 意思決定最適情報のみを基本ワークフローに組み込み、リアルタイムに提供
Plan→Do →Check→**Actionの連動!**
- 異常値管理の自動化を図り、突発性の異常にもクイックに自動反応可能とする

ODM化!

ODM=OPTIMUM DECISION MAKING

どんな企業も「^{ODM}省脳化」で再生出来る！

省脳化（ODM）とは最適判断ロジックを持つシステム！→経営に役立つITにODMは不可欠！

